
[成果情報名] イチゴ「あまおう」の早期作型における定植時の花芽分化ステージと収量
[要約] イチゴ「あまおう」の夜冷短日処理による早期作型では、第一次腋花房の開花日
や頂花房開花日から第一次腋花房開花日までの日数、2月および収穫期間を通した商品果
収量は、定植時の花芽分化ステージに関係なく同等である。

キーワード] イチゴ、あまおう、花芽分化ステージ、夜冷短日処理

[担当部署] 野菜栽培部・イチゴ栽培チーム

[連絡先] 092-922-4364

[対象作目] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 生理生態

[背景・ねらい]

イチゴ「あまおう」は、花芽分化がやや遅い。このため、早期作型を導入するに当たっては、第一次腋花房の収穫開始が遅く、頂花房の収穫との間に中休みを生じることが大きな問題となっている。また、中休み軽減について、生産現場では定植時の花芽分化ステージを遅らせることが有効であると考えられているがその影響は明らかではない。

そこで、「あまおう」の夜冷短日処理による早期作型における定植時の花芽分化ステージが頂花房と第一次腋花房の収穫時期及び収量に及ぼす影響を明らかにする。

(要望機関：生産流通課 (H17)、南筑後普 (H16)、飯塚、八女、北筑前普 (H17))

[成果の内容・特徴]

- 1 . 定植時の花芽分化ステージをかえても、草高は同等となる (表 1) 。
- 2 . 定植時の花芽分化ステージをかえても、第一次腋花房の開花日は同等である。また、頂花房開花日から第一次腋花房開花日までの日数も、花芽分化ステージに関係なく同等である (表 2) 。
- 3 . 頂花房と第一次腋花房の花房間葉数は、定植時の花芽分化ステージに関係なく同等である (表 2) 。
- 4 . 定植時の花芽分化ステージをかえても、収穫の中休みとなる2月、および収穫期間を通した商品果収量は同等である (表 3) 。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 「あまおう」栽培のための基礎資料とする。

[具体的データ]

表1 花芽分化ステージの違いによる草高 (単位: cm)

花芽分化ステージ	平成 16 年度				平成 17 年度			
	12 月		3 月		12 月		2 月	
分化期 (対照)	26.1	a	32.5	a	28.3	a	22.4	a
ガク片形成期	23.3	a	33.0	a	29.5	a	22.8	a
雌蕊形成期	23.1	a	32.0	a	28.9	a	23.0	a

注) 1. 異なる文字間には 5%水準で有意差あり (Tukey 検定)

2. 定植日は平成 16 年度が 9 月 10 日、平成 17 年度が 9 月 9 日

3. 花芽分化促進は夜冷短日処理で行い、処理期間は分化期: 23 日間、ガク片形成期: 26 日間、雌蕊形成期: 29 日間とした。

表2 花芽分化ステージの違いによる第一次腋花房の開花日、頂花房開花日から第一次腋花房開花日までの日数および花房間葉数

花芽分化ステージ	平成 16 年度				平成 17 年度					
	第一次腋花房		日数 (日)	第一次腋花房		日数 (日)	花房間葉数 (枚)			
	開花日			開花日						
分化期 (対照)	1月 7日	a	74	a	1月 27日	a	105	a	11.6	a
ガク片形成期	12月31日	a	71	a	1月 25日	a	104	a	11.0	a
雌蕊形成期	12月31日	a	72	a	1月 25日	a	104	a	11.2	a

注) 異なる文字間には 5%水準で有意差あり (Tukey 検定)

表3 花芽分化ステージの違いによる商品果収量 (単位: kg/10a)

年次	花芽ステージ	11-1 月	2 月	3 月	4 月	合計
H16	分化期 (対照)	2,120	117	1,128	1,904	5,268
	ガク片形成期	1,928	126	1,347	1,729	5,131
	雌蕊形成期	1,732	202	1,426	1,543	4,903
H17	分化期 (対照)	1,238	31	1,965	1,180	4,413
	ガク片形成期	1,261	20	2,170	1,120	4,571
	雌蕊形成期	1,203	43	2,165	1,390	4,801
分散分析	花芽ステージ	n.s	n.s	n.s	n.s	n.s
	年次	**	**	**	**	**

注) n.sは有意差無し、**は 1%水準で有意差有り

[その他]

研究課題名: イチゴ「あまおう」の高所得経営を支援する生産技術の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成 17 年度 (平成 15 ~ 17 年)

研究担当者: 佐藤公洋、北島伸之